

63. 日本人青年女子（12～14才）の体型に適する 衣服寸法の基準設定について

お茶の水女子大 柳沢 澄子
釜田貴美子
原田 藤枝

1. 日本人青年女子の体型に適する衣服寸法の基準を設定する目的をもって、さきに高校女子生徒を対象として、生体学的研究を行い、昨年の本総会において報告した。今回は中学校女子生徒を対象として、同様の研究を行ったので報告する。

2. 東京都某二区立中学校女子生徒 596人を対象として、18項目の生体計測を実施し、計測値並びに示数21項目について学校別、年令別並びに既径者・末径者別に体型の差異を検討し、更に成人女子（20～24才）との比較において、この年令期の体型の特徴を観察した。次に以上の成績を用いて、体格別（身長・胸囲各4 cm間隔）に、袖丈など10項目の値を回帰平面により推定し、衣服寸法の基準設定を試みた。

3. 学校別の体型については、3年令とも僅少な不規則な差異を示すにすぎない。年令別の体型については、身体示数には著差はみられないが、各計測項目は、加令により急速に増加する。既径者の体型については、示数以外の項目はいつでも末径者より著しく優位である。年令別の体型を成人女子と比較すると、身体示数は成人女子よりやや上まわる傾向にあるが、衣服寸法に関係のある項目では、背肩幅を除き成人女子より一般に劣っている。そのうちでも胸囲・腰囲・頸囲及び前胴丈は、著しく劣っており、この年令期特有の体型を形成するものようである。以上の結果に基き、年令別に衣服寸法の基準を設定した。